

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの視点を含んだ事業所独自の運営理念「一人のために寄り添う」がある。また、具体的な目標として「常に笑顔で」「家族と共に」「地域の中へ」の3項目を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週1回の全体ミーティング、昼食後のミーティングなどで、管理者は常に理念を意識して行動するように、意義を話し、職員はそれを取り入れるよう努力している。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の方がボランティアで踊りや歌、楽器演奏などで来られ事業所内のことを知っていただく。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	火災訓練時、近隣の方々の参加を呼びかけ、参加していただいている。近所の理容院に散髪をしていただき、交流を図っている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、清掃活動を行ったり、地域で開催する文化祭に作品を出品し参加している。また、地元の保育園の遊戯会や小学校運動会の見学。中学校の職場体験を受け入れている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方から介護の相談を受けた時には、説明、アドバイスを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年の評価を受けて、改善項目があれば全職員で十分検討し、策を出し合い改善に取り組んでいく。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し、外部評価の報告や改善課題について話し合っている。また、事業所の現状やヒヤリ・ハット、行事等の報告を行う。今後の取り組みについて意見を伺い取り入れている。話し合ったことは、全職員、ご家族が読めるように、受付等に置いている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	3ヶ月に1回地域向けの事業所便りを発行し、行政にも配布している。また、相談をしたりサービスの向上に取り組んでいる。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する学習会を実施し、全職員の周知を図っている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	学習会を行い虐待についての理解を深めると共に事業所内で気付いた事からを事例に挙げ改善・防止意識が高まるように努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には管理者より、ご利用者やご家族に十分な説明を行っている。また、職員も、事業所の理解として契約書、重要事項説明書の説明を受け、学習会を行った。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は常にご利用者の言葉に耳を傾けるよ うにしている。また、運営推進会議にはご利 用者2名～3名ずつに交替して貰い、なるべく 多くのご利用者に参加していただき、意見を 求めるようにしている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	金銭については管理者より、毎月ご家族へお 小遣いの使用状況を送付している。健康状態 に変化のあった時には、ご家族へ電話連絡を 行う。毎月1回の事業所だよりに、近況を書 き添えて各ご家族へ送付している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見交換をしたり、年に2 回の家族会にて、苦情、意見等をいただき、 改善している。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	必要時、理事長を交えた全体会議の中で、意 見交換をしている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	必要時には、勤務交代や法人内の応援体制に より、勤務調整を行い、柔軟な対応ができる ようにしている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職の話が出た時には、管理者が話を 聞き相談にのり、その上で、理事長に報告、 相談をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては、性別に関係なく、10代から60代まで幅広い年齢から採用をしている。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部の人権講習会に職員が参加し、後日、ミーティングにて報告をしたり、事業所内で学習会を行ったりしている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修支援について積極的な参加を促しているが、職員の充足に苦慮している。毎年介護支援専門員の資格取得に協力している。	○	他グループホームへの研修を行う。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町が主催する在宅ケアネットワークに管理者が参加している。学習会がある時には職員にも参加を促している。母体である介護老人保健施設での学習会へ参加する機会がある。	○	同業者との交流促進を図る
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	理事長を交えストレス解消法について意見を交わしたり、誕生日には有給をとるように決めたりしている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則があり、定期的に健康診断を受けている。年2回の賞与時や年度末には、自己評価、他己評価による、考課制度があり、それにより賞与や昇給が決まっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者は利用に至るまでに、担当のケアマネージャーに話を聞いたり、ご本人に話を聞いたり、事業所の見学に来ていただき話を聞いている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者は利用に至るまでに、担当のケアマネージャーに話を聞いたり、ご家族に話を聞いたり、事業所の見学に来ていただき話を聞いている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者は担当のケアマネージャーと話をしたり、ご家族と話をしたりし、ご本人に合ったサービスを勧めている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始に至るまでは、必要に応じて事前見学を受け入れている。また、ご本人に合った方法で馴染んでいけるように、ご家族と相談しながら工夫し、すすめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者にできる家事を一緒に行ったり、毎日の会話の中から多くのものを学んだりしている。例えば、梅干しや、らっきょうの漬け方など。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	基本的に病院受診はご家族にお願いしている。なにかあった時には、すぐに連絡、相談をするようにしている。家族会では、花見やミニ運動会を開催しており、一緒に楽しめるようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	病院の定期受診や、薬受けは基本的にご家族へお願いしている。気づいたことがらについては、ご家族へ相談して意向を伺いながら支援している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者がみえると、居室にてゆっくりと会話ができるように、お茶を出したり、椅子を持って行ったりしている。家族との外出や帰ホーム、面会は時間の決まりはなく、何時でも自由としている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	ご利用者同士の関係はほぼ把握している。ご利用者同士の関わりの中で衝突などが生じた時には、さりげなく間に入り、良好な関係を保てるように努めている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所者に対しても、面会に行き、相談を受けたりし、関係を継続している。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や、ご利用者の言葉より、希望や意向を把握し、ミーティングで話し合ったり、ご家族へ相談したりしている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴や入所後の生活について記録を残し、職員や家族が情報を共有できるように努めている。ご本人ご家族との関わりの中で、生活歴等の情報の収集、把握に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の食事、睡眠、排泄、バイタルの記録や、1日の生活記録等すべての記録を全職員が目を通し、心身の状態や、現在の状況を把握している。生活リハビリを取り入れ残存機能活用に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、ご本人の毎日の生活から出る言葉を大切にしながら、ご家族及び職員の意見を反映し、作成している。ご本人のモチベーションを上げるようなプランを作成している。作成後は、全職員が目をとおすようにしている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6か月に1回介護計画を見直している。状態の変化があると思われる方は期間を3か月にしたり、急激な変化のある方はその都度話し合っ、ご家族にも了承をえて変更をするようにしている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の心身の状態や行動を記録するだけでなく、ミーティングで話し合った内容なども個別記録に記入している。特に大事な個所にはマーキングをして、情報を共有している。就業前に必ず目を通してている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院と連携体制を活かして、そのご利用者にとって受診が負担となる場合は、往診していただいている。入院の回避、早期退院の支援を行い、必要時には家族とともに説明を受け、アドバイスを行うようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	事業所全体として、民生委員、ボランティア、公的機関と協力して、安全でより豊かな生活が送れるように、連携をとっている。隣接している公民館の活用、保育園、小・中学校、消防署、文化施設との交流がある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	退所時には他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合いを行っているが、今までに限度額内で利用できる内容の要望が出ていない。	○	ご利用者や家族に利用可能な事柄についての紹介を行い要望を聞き入れるようにする。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターとの情報交換、意見交換・利用予定者・利用希望者などについての話し合いの機会はあるが、協働場面はない。	○	交流の促進
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医が主治医となることを原則としており、ご家族が受診に連れて行く際には、ご本人の最近のバイタルや心身の状況などを記録した、受診用情報提供書を持っていていただき、適切な医療を受けられるよう支援している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	管理者は認知症に詳しい医師との連携を築いており、相談をしている。ご利用者やご家族が、認知症に関する相談や診療を受けられるように支援をしている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が正看護資格者であり、他にも看護資格を有する職員がおり、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはご本人に関する情報を提供し、医師や家族が連携を取りやすいように、治療をしやすいようにしている。必要時には、ご家族への病状説明、治療方針説明、退院計画などに参加し意見を述べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期に対する方針をできるだけ早めによりしっかりとご家族と話し合うようにしている。方針が決まれば、全職員で共有していく。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所ができること、できないことを家族に伝え、ご利用者、ご家族のニーズにそえるよう、主治医とも連携をとり、危篤状態に陥った時の対応についての話をしたことがあった。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人についての十分な話し合いをご家族やケア関係者で行ったり、情報を提供したりしている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護についての学習会を行い、全職員が周知するようにしている。職員はプライバシーを損ねるような声掛けや、対応をしないように心掛けている。	○	時には誇りやプライドを傷つけるような対応、言葉かけをしてしまうので職員がお互いに気を付けていきたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	毎日の会話や声掛けにより、思いや希望を表現できるよう、出来ない方にはこちらが理解してあげられるように気を付けている。	○	個人が選択や決定を行える場面をつくるのができたらいいと思う。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を考慮した対応をしている。疲れている時は休んでいただくようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近所の美容室に2カ月に1回ぐらいの割合で行っている。行けない方のために来ていただいている。ご家族が昔からのなじみの美容室に連れて行き、パーマをかける方もいる。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員(2~3名)も一緒に食べている。その他は一緒にテーブルにつきお茶を飲んだり、会話を楽しんだりしている。できる方には、料理の下ごしらえや、お茶汲み、下膳をしていただいている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	水分をなかなか取らない方は、ご本人の好むものをあげるようにし、水分摂取に心掛けている。手作りのおやつや、ジュースを提供している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にて排泄パターンを把握して誘導し、排泄の失敗やおむつの使用を減らすように心掛けている。夜間でもなるべくトイレに行くように誘導をしている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を拒む方に対しては、声掛けの工夫や、チームプレーを行い少しでも落ち着いて入浴できるような対応をしている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体調に合わせて昼寝をするように支援をしている。夜間眠れないご利用者に対し、ご家族と相談し受診していただき、精神安定剤や、入眠導入剤の服用やアドバイスをいただき対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	女性の方には、家事を手伝っていただき、男性には、新聞畳みなどをしていただいている。職員はその都度感謝の気持ちを述べている。時にはその時期の行事を開催したり、ボランティアのかたによる、歌や踊り、楽器演奏を楽しんでいる。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人にはお金は持たせていない。神社にお参りをするときにお賽銭を持たせるくらい。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	時々、事業所周辺の散歩や、買い物と一緒に رفتりしている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族とご本人は温泉や、食事に行っている方もいる。季節ごとの花の咲く時期には、行ける方はドライブに行ったり、外で弁当を食べたりしている。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をしたいと言えば掛けてあげている。ご家族へ電話で話していただいたり、手紙を出していただけるよう、協力をお願いしている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	ご家族には24時間いつでも訪問していただけるよう、また、泊りもできるようにしている。訪問人数に応じ、会議室を使用させていただき、ゆっくりと過ごしていただけるようにしている。ご家族等にはお茶や、椅子を出してくつろげるようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会では身体拘束、言葉の拘束について資料を配布しそれぞれに意見を出し合い話し合った。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員は施錠をすることは身体拘束に当たるということを理解している。日中玄関は施錠せず、チャイムとセンサーを設置している。職員はご利用者の外出傾向を把握しており、ご利用者が外出する際は、さりげなく後を付いて見守り、一緒に散歩して帰宅している。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通してご利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜をとわず、全てのご利用者が見渡せる位置に配置しており、どこに誰がいるのかを常に意識している。介助のために移動するときには他の職員に声を掛けている。個人名での話は、イニシャルや、小声で話すようにしている。	○	もう少し声の大きさに気をつけ、個人のプライバシーに配慮したい。
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等の置き場には施錠をし、ご利用者が開けられないようにしている。異食をする方には口に入れそうなものはお部屋に置かないよう段階をおってご家族に持って帰ってもらった。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやり・はっと報告は各職員が自主的に出しており、それを全職員が話し合い事故防止に努めている。消防署と連携し、救急の対応や火災訓練を行っている。行方不明時用に捜索用のマニュアルなど作っている。事故防止のための学習会を行った。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時は看護師である管理者に24時間体制で対応してもらっている。定期的ではないが、急変対応の学習会を行ったり、消防署での実演を行ったりしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近所の方に避難訓練の参加を呼びかけ、協力をいただいている。もし、災害が起きたときには隣の公民館へ避難するようにしている。消火器、避難経路、非常食の確認、確保をしている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご利用者の現在の状態をご家族が来られたときや、広報のお便りのらんにてお知らせしている。変化があった時には電話連絡したり、来ていただいたして、リスクについてご家族に説明し、話し合いをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、入浴前にバイタル測定をし、数値の悪いときには後で再度測定している。他に、気付いた事を個人記録に記入し、職員が情報の共有をしている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については分かっているものと、分からないものがある。薬が変更になったときには申し送りをし、症状の変化を観察している。服薬時には2名の職員で確認し、確実に服薬を行うようにしている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘になると不穏や、不眠、食欲不振、腸閉塞等の危険があるので、便秘予防のために、水分補給と、運動を心がけている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、夕の口腔ケアを個人に合わせ、声かけや、介助をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事を記録しており、不足している方は栄養ゼリーや、牛乳、アイスなど好みの物で補っている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対し、マニュアルを作成している。予防のために職員は、常に就業前に手洗い、嗽を行っている。冬場にはマスクを着用している。ご利用者も外出から帰ってきた際には、手洗い、嗽をしていただいている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の掃除は曜日を決めてしている。毎日冷蔵庫のものは賞味期限を確認している。台所のいつも使用する、シンクやまな板、布巾の消毒は毎日している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	木造の一軒家で周囲との調和も取れている。敷地内に畑があり、周りには花を植えている。玄関には花をかざったりし、入りやすい雰囲気をつくっている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間、食堂には季節の花を常に飾っている。窓の外には、草花が見えるようにしている。食堂に西日が入り暑かったので、ゴーヤを植えている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は一人の場所であり、プライベートの場所として利用し、ホールやリビングでは気の合った方同士が思い思いに過ごすようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風モダンのゆったりとした個室になっており、以前使用されていたタンスや布団、時計などを置かれて、ご本人が居心地良く過ごせるようになっている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温湿度計を置き常に快適な温度、湿度で過ごせるように気をつけている。床下に室内換気の設備があり、開けたり閉めたりし、温度を調節している。空気の入替えをこまめに行い、自然な風も感じてもらえるようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手摺りがついており、歩行が不安な方は利用している。各居室にトイレがあり、すぐに、自由に行けるようになっている。必要な方は、円座や分圧マットを使用している。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所がわからないご利用者のために、「便所」と紙に大きく書き分かりやすくしている。食事の席には慣れるまで名札をつけている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りには花を植えたり、花壇や畑があり外に出たときには散歩がてらに花や野菜を見て楽しんでいる。ご利用者と一緒に洗濯干しや取り込み、水撒き、畑の草取り、野菜の収穫などを行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

新築木造のため、いつでもきれいな状態で気持ち良く過ごしていただけるように、掃除には気をつけている。食事の栄養バランスが取れるように、母体の管理栄養士に3ヶ月に1回献立を見せてアドバイスをいただいている。季節を感じていただけるように、花や野菜を育てている。常に玄関やホールに花を活けている。意欲低下や機能低下を防ぐために、生活リハビリや、レクリエーションが充実できるように努力している。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ひとりの為に寄り添う」という独自の理念を持っている。その人らしくを大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体会議、ミーティングなどで理念の確認、共有しておりサービス提供の仕方についても職員間で話し合っている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会、運営推進会議、広報などで理念を伝えている。また機会がある時に、取り組みを理解してもらっている。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣組の美容院に行ったり、ボランティアの慰問の受け入れなどと合わせて、近隣との交流を持つようにしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭の参加、保育園や学校の生徒の訪問、地域のボランティアの方の慰問など交流している。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方からの介護などの相談を受けた際、説明アドバイスなどを行っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年の評価を受けて全職員で検討しており、改善課題についても策を出し合って改善に取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。外部評価の報告、改善課題について話し合い、また事業所の現状や今後の取り組みについて報告を行って委員から意見を頂いている。活動内容なども報告しアドバイスを頂いている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	3ヶ月に1回、地域向けの広報を発行し行政機関への配布を行っている。その他必要に応じ相談したり、アドバイス等を頂いている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、その後事業所内で全職員への復命学習を行っている。成年後見人制度についても周知徹底を図っている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	学習会で勉強の機会を持ち、虐待が起きないように職員間で注意をはらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明には時間をかけ重要事項の説明を行っている。予測されるリスクや、事業所の機能の範囲について説明し、可能な限り意向を受け入れるようにしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂き意見要望の引き 出しに努めている。又、日常でも要望などを 聞いたりしている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	毎月発行する広報にて、ご利用者の日々の様 子等を報告している。健康状態に変化があれ ば電話連絡している。毎月預り金の出納簿領 収書のコピーを、ご家族に送付し確認書に押 印して返信してもらっている。また、預り金 の入金証書も添付している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会で苦情や意見を聴取してい る。また玄関に意見箱を設置したり、面会時 に意見等を聞くように心掛け、それらを運営 に反映にさせている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	全体会議、全体ミーティングで意見を出し合 い聞いてもらう機会がある。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	管理者と職員はミーティングにて提案し体制 についても話し合う。ユニット間で応援体制 を取ったりし、協力し合っている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職、異動など最小限にするように、 新人職員にはできるだけ無理なく覚えやすく 指導して、ご利用者へのダメージを防ぐよう に努力している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては、性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。正職員やパート職員と区別なく勤務の内容、昇進、定年など平均であり、自己実現の権利は全職員に保障している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習は外部講習に職員が出席し、その資料を学習会や全体ミーティングで他職員にも周知している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に外部・内部研修を受ける機会があり、また、年間計画があり、職員育成するための具体的な計画がある。学習会や全体ミーティングを定期的に行い職員の資格の支援もしている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者と交流し、サービスの向上に努めている。町の同業者のネットワークの勉強会に管理者・職員が参加している。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	希望する休日は前もって伝えることで取ることが出来、休憩時間も取れるように声かけをおこなっている。横になれる休息場所を確保している。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則があり、定期的に健康診断を受けている。賞与、年度末には自己評価・他者評価による考課制度がある。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前からのアセスメントを職員で共有すると共に毎日のふれあいの中で本人の思いや生活習慣を聞き理解に努めている。職員同士でも知りえたことをミーティングで共有している。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に訪問が可能な場合は訪問し、家族の話に耳を傾けている。入所時には、家族が一番困っている事は何かを知る為、出来るだけ話を聞く時間をもつ。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や利用者の要望を見極めケアプランにいかしている。出来ないと思われる事にも目をむけ職員同士で意見交換を行うようにしている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前見学を受け入れ、職員が自宅訪問をしている。即入所になった場合は、家族に介護内容を説明し、また周辺環境を確認してもらうことで利用者及び家族に安心して馴染めるように努めている。	○	ショートステイにて馴染みながら入所していくようにしていたが、現在休止しており、環境が整い次第再開したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事準備や片付け、畑仕事など職員が知らない生活の技を教えてもらい、また、利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者が共に過ごし、学び支えあう関係を築くようにしている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを密にとり、利用者の現状を伝え理解してもらえるように努めている。家族の不安などにも耳を傾け、共に利用者を支えていくように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	病院受診を家族にさせていただくことにより本人とのつながりが保てるようにしている。事業所付き添いの場合は家族に報告し把握していただいている。家族の対応に混乱が生じないように双方に働きかけている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者が来たときは居室でゆっくり過ごしていただいている。時には、職員も話の中に入り話が繋がるように支援している。外出や外泊を通し関係の継続がはかれている。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	毎日レクリエーションで利用者同士の交流を図っている。職員はそれぞれが得意とする分野を把握しており残存能力が生かせるように支援している。トラブルが発生した場合は間に入り調整している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設等への利用変更があった場合でも機会を見て面会に行くなどしている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者に声かけし、希望や意向の把握に努めている。意向の把握が困難な場合は、ミーティングで話し合い本人本位に検討している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴、全体像を知るために利用者や家族とのコミュニケーションの中から小さな情報にも多感に職員で共有している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録類で生活リズムを把握している。出来ることを見つけケアプランにいかしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、家族及び全職員の意見を反映し作成している。変更があった場合は、介護記録、申し送り簿で伝達し全職員に周知できるようにしている。申し送り簿には職員の押印がある。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回、また状態変化に応じて介護計画の見直しをおこなっている。急激な変化がある場合は、家族に連絡して了承をえている。家族の押印がある。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の行動、発言などわかるように記録し、職員で共有している。重要な事柄はマーキングしている。必要時ミーティングしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した場合は、早期退院に向けて支援している。病院との連絡、必要時家族と共に説明を聞くようにしている。通院や送迎など必要に応じて個別支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の誕生日等は地域ボランティアのかたに協力・年二回の避難訓練時は消防の方に協力していただいている。	○	利用者と共同でできることに取り組んでいきたい。さまざまな活動ボランティアの方との繋がりを継続する。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	在宅のケアマネージャーに来所してもらい状況説明をしたり、意見を貰ったりしている。必要時には保健センターの保健師への相談を行っている。	○	他のサービスの活用を積極的に利用者・家族の意向を尋ねながら取り入れる。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターとの情報交換・意見交換・利用予定者・利用希望者などについての話し合いはあるが他の協働場面はない。	○	包括支援センターとの関わりを深めネットワーク組織の構築をはかる。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切にし、利用前からのかかりつけ医の受診を支援している。通院や送迎はご家族にお願いしている。適切な治療を受けられるように状態報告書を持参してもらっている。必要に応じ職員が通院・送迎を行っている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医受診時には必ず担当者が状態報告書を書き医師に提供して専門医の立場からの意見を伺っている。投薬の状態などについて医師と家族・職員間で話し合いながら治療がなされている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者は看護師であり、健康管理や医療面において常に職員の相談にのると共に専門的知識を以て支援している。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関とは常に連携しており、入院時には本人の情報を提供している。出来るだけ面会に行き状況把握に努め、早期退院に向けて家族とも相談している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合や終末期のあり方について方針があり、事務所、家族、本人、医療関係者、担当職員などで話し合い、入所時に家族への説明をしている。また、折に触れ、家族と話し合いをして、方針を共有している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当ユニットにはまだ該当者が居ないが、終末期支援については折に触れミーティング時に支援の仕方について話し合っている。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの際にはこれまでの暮らしの状況を伝え関係者に協力している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法について全体ミーティング・学習会を行っている。職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがない様声かけや対応し、記録などの個人情報の取り扱いに配慮している。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活を通して本人の思いを引き出しそれに添えるように対応している。買い物・手伝い等、本人の好きなことを見極め無理のない程度にやってもらっている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、強要することなく、また一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の気持ちを尊重して支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し美容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近所に美容室があり、1ヶ月に1回程度の割合で行っている。化粧品等は希望があれば購入していただいている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者や職員と一緒に食事の準備や片付けを行っている。職員と利用者が同じテーブルで同じものを食べ、楽しく食事が出来るよう雰囲気作りに配慮している。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	会話の中で好みの物を尋ねており、栄養担当がメニュー作りの時にも食べたい物を尋ねメニューに取り入れている。食べられない方は別メニューを用意している。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ケアプランに個別の排泄方法を挙げ本人の排泄リズムに合った対応を心がけている。紙パンツ、尿取りパットの使用などは個別ミーティングで見直しなどを行っている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望、体調等、個々の状態に合わせた入浴を心がけている。拒否がある利用者については、タイミングを見ながら声かけし入浴できるようにしている。支援方法については、ミーティングし入浴につなげている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個別の生活リズムを掴み、不眠や疲れのあるときは休息を勧めている。不眠のため受診する際は、状態報告書を出して、主治医と相談している。日中の活動を促し夜間に眠れるように努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や料理など、利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら職員は利用者へ感謝の気持ちを伝えるなど、利用者と共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物取られ妄想を防ぐためにも、家族と相談し小額を渡す事はあるが、混乱が酷い時は預かり、それを伝えて安心してもらっている。買い物時は自分でお金を支払ってもらっている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に事業所周辺で散歩や週2回の買い物など、一人ひとりのその日の希望に添って、戸外へ出かけられるよう支援している。	○	外出回数を増やして、活動意欲の向上など、生きがいに繋げていきたい。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との交流を含めた外出を計画している。 (みかん狩り等)	○	家族会などでアンケートを取っている。今後も利用者へを聞いて出来るだけ外出の機会を作りたい。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等、自分で書いてもらえるように支援している。手紙のやり取りは家族と相談しながら行っている。携帯電話使用に関しても希望がある時には支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族の訪問は24時間対応可能な状態にしており宿泊できるようにしている。訪問時は居室など好きな場所で過ごしてもらえるように配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	学習会では拘束についての勉強をしており、職員主体で話し合うことも多い。拘束しないように注意あっている。	○	言葉の拘束など注意していきたい。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠せず、センサーチャイムを設置している。職員は利用者の外出傾向を把握しており、利用者が外出する際はさりげなく後をついて見守り、一緒に散歩して帰宅している。	○	利用者のストレス軽減のためできるだけ意向にそうように見守りたい。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	着替えや電話介助も各居室で行っており、プライバシーを守っている。日中さりげない見守りを怠らず、夜間は全室を見渡せる位置で、すぐに行ける様な体制で勤務している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤等が入っている置き場の扉を、頻繁に開ける利用者が増えた為、簡易施錠を必要に応じて使用している。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故に繋がる状況などは、記録しマーキングして職員同士で共有している。ヒヤリハットについては、学習会の課題として出し、皆で再検討し事故防止に努めている。	○	利用者の服薬状況、内容の把握の為、服薬ファイルを作成し誤薬防止に努めている。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命の学習会では、消防署救急隊員を招いたり、消防署にて応急手当、初期対応方法を習っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。非常用食料や備品を準備している。	○	近隣住民参加の消防訓練の実施。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時に家族に説明しており、状況変化すれば、職員でミーティングしリスクについて話し合っている。変化については、電話・面会時等で説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化が見られる時には、管理者へ報告して指示を仰いでいる。記録などで、職員同士で共有し、早めの対応をしている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箱に各利用者の服薬情報を入れており、不明な時は確認し副作用はミーティング等で話し合う。服薬は二人で確認する。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維の摂取、飲水、散歩などで、排便を促している。個々の日々の状態に合わせた薬剤使用を心がけている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個別に合わせて口腔ケアを実施している。歯科衛生の有資格者に学習会等で指導してもらっている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員と調理師が話し合い、利用者の状態や嗜好、要望に合わせて献立を作成している。食事、水分量を記録に残している。栄養士に助言してもらい健康管理している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	学習会・マニュアルがある。全職員が周知し早期発見に努めている。保健所・町から情報をえている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日まな板・布巾の消毒など行っている。賞味期限にも注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には植物等置き安らげる工夫をしている。ボランティアが来る際には、歓迎の紙を玄関に貼って入りやすくする。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	24時間換気システムを取り付けている為、臭気が気にならない。廊下に畳の空間があり、壁には利用者が作った各品を貼り居心地良く過ごせる工夫をしている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビング、食事テーブルなど、個々で自由に過ごしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや馴染みのものなど、生活スタイルに合わせて持ち込んでいる。各居室には写真ボードがあり、個々で活用している。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日数回窓を開けて換気している。汚物はすみやかに新聞紙で包み回収している。温度、湿度を観察し調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関・廊下・トイレには手摺りをつけている。転倒が予想される方には、滑り止めマットを使用している。外出の際には、身体機能に合わせ車椅子などの使用をしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	衣替え、布団交換を家族と話し合い利用者にも伝えている。出来る所はやってもらい事柄も伝えている。混乱のないような声かけをこころがけている。	○	1日の流れがわかりやすい日課表を再度作りかえたい。利用者と一緒に作成したい。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑の横に座れる場所があり、日光浴に活用したりしている。	○	庭先で食事を楽しむ回数を増やしたい。

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

食事は地元の旬の物をふんだんに使用して、3食事業所で作っている。出来合いはなるべく使用せずに手作りにしている。また、利用者に手伝っていただく事も多々ある。事業所内の清掃を心がけ利用者と共に清掃している。心身の健康維持に取り組んでいる。